

事業実績書

1 事業名 「ええとこ穂井田」農都交流ネットワーク推進事業

2 実施期間 令和2年6月11日～令和3年3月31日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

○事業の目的

- ・都市住民（特に子育て世代）に対して、「農」ある暮らしを体験して頂き、「市民農園」という農都交流の仕組みが有効に機能するような仕組みづくりとその検証。次年度の「市民農園」開設につなげられるように協議会を中心に地域全体で協議し結論を出す。
- ・耕作放棄地や農業後継者不足に悩む備中地域の農家と「顔」の見える関係をつくり、備中地域内でのネットワークをつくり、移住定住を促進する仕組みづくりを確立する。
- ・穂井田地域における「市民農園」開園が、地域を活性化する仕組みとして有効と判断した場合、地域における運営形態をどのようにするかを検討し決定し、次年度開園のための計画を作成する。

○事業の概要

（1）耕作放棄地の調査

- ・県民局が取り組んでいる、「人・農地プランの実質化」に向け、地域での勉強会の開催や市と連携したアンケート調査の実施・とりまとめを行い、今後の地域の農地の活用方法について、検討を行った。
- ・移住者の希望に合わせて紹介できるように、下記の3タイプに分けて調査を行った。
 - 1) 新規就農者に提供できる農地
 - 2) 市民農園として提供できる農地
 - 3) 家庭菜園として提供できる農地

（2）試験的市民農園づくり

- ・倉敷市農業委員会と協議して、穂井田地域の耕作放棄地の中で法律・制度に則った市民農園の適地を選定し、市民農園づくりとして10区画設置し、試験的な運用を行った。利用者募集を行い、現在は10区画のうち8区画が利用されている。
- ・また、次年度に向けた農地の確保を通してプロセスの検討や、今後の他の農村地域の方々とのネットワーク構築に向けて農業を軸とした着地形観光等による地域活性化方策について情報収集を行った。

（3）市民農園でのワークショップの企画実施

- ・都市部在住の親子を対象として、市民農園での作付（9月13日）及び収穫（11月15日）の農業体験を行った。

- ・ 試験的市民農園では、作物栽培が楽しく継続できる作物や市場性の高い作物として、サツマイモやキャベツのほか、わさび菜等の変わった野菜を選定し植え付けた意見と収穫体験を行った。体験時に農業の楽しさとともに体験終了後に地域住民と備中地域の食材を活用した「食」の交流イベントを実施し作物の美味しさを感じてもらい、参加者から「市民農園」の借受者を確保できた。

9月13日 ブロッコリー、白菜、レタス、赤かぶ、黄色人参、ダイコン等
7組(大人9名、子ども10名)の参加

11月15日 同上

体験後、交流イベントを実施し鍋(ジビエ料理)

17組(大人26名、子ども30名)の参加

- ・ ワークショップ参加者に対して、次年度以降の市民農園の利用需要に関するアンケート調査を行い、その分析結果から今後の穂井田地域での市民農園の
ではもっと幅広い体験を行っていくこととした。
- ・ 穂井田地域の特産であるモモ農家の新規就農者受入れに向け、モモ部会と協働して募集に向けた研修圃場の場所の選定や苗木の定植を行った。

試験的市民農園の圃場整備



市民農園での作付け

アンケート

穂井田ええとこ「コスモス市民農園」のご利用ありがとうございます。
今後の市民農園運営のためにアンケートのご協力をお願いします。

- 問1. あなたは何歳ですか。 _____ 歳
- 問2. なん家でご利用していますか。 _____ 家族
- 問3. あなたが市民農園を利用した動機はどのようなことですか。(複数回答可)
- ① 農作業の体験をしてみたいと思ったから
 - ② 子供に作物の栽培を体験させたいと思ったから
 - ③ 家族などのコミュニケーションの場として利用したかったから
 - ④ 自分や家族の健康のため
 - ⑤ 休日を有効に活用する機会に利用するため
 - ⑥ 安心できる農作物を栽培するため
 - ⑦ 将来、農作業を行いたいので農作業の技術を習得するため
 - ⑧ その他 _____
- 問4. 市民農園20㎡(4,800円/年額)を基準とした場合、どのくらいの広さを
利用しますか。(希望)
- 1区画20平方メートルで年間4,800円
 - 1区画30平方メートルで年間7,200円
 - 1区画40平方メートルで年間9,600円
- 問5. 現在、利用期間は1年間ですが、どの程度の期間がよいと思いますか。
- ① 1年 ② 2年 ③ 3年
- 問6. 現在、不便に感じることを教えてください。
- _____
- 問7. ご要望があれば教えてください。
- _____



市民農園での収穫祭

■ 市民農園利用者からのアンケート結果

※ 30代3人、60代3人の方からアンケートの回答をいただいた。

- ・ 若い世代の利用動機は、子供に作物の栽培体験をさせたいという思いが一番。休日の有意義な過ごし方として、自然の中で農作業をしたり、家族とのコミュニケーションの場として利用したいという思いで申込みをされたと考えられる。
- ・ 60代の方は自分や家族の健康のため、安心のできる農作物を栽培したいという思いから申込みをしたと考えられる。
- ・ 市民農園の広さ、料金、利用期間については、全ての人が、1区画20㎡で年間利用料4,800円、1年間の利用を希望する(最小の単位・期間)との回答であった。何故、2、3年続けて借りたいと思っている人がいなかったのか検証したい。

(4) 市民農園先進地域への視察検討と市民農園指定計画の作成

- ・試験的な市民農園の実施結果を踏まえて、将来的に市民農園型の農都連携の先進地域や「農泊」「農家レストラン」等の実現を図るための情報収集と検討を行った。
- ・穂井田市民農園PRのための広報媒体の制作。既存HPへの広報ページの追加制作、チラシ等の作成を行い、倉敷市、岡山市などを中心に近隣地域へのPRを行った。また、ほどよい田舎を伝えるために穂井田地区16ヶ所の地点でドローン撮影を行った。

(5) 穂井田市民農園づくり計画に関する研修会の開催

- ・備中地域の都市住民、農村地域住民を対象として、本事業に取り組む備中地域の農業関係者や農村地域活性化や農都連携に関する知見者を講師にした研修会を1回開催した。

日時：令和3年2月21日（日）10時～11時30分

場所：穂井田憩いの家

講師：NPO法人みんなの集落研究所 阿部典子 氏

内容：穂井田地域まちづくり協議会のこれまでとこれからを考える研修会

参加者：10名



(6) 移住定住の促進

- ・県が主催する、都会での移住定住相談会に備中地域として参加をするため、「農」ある暮らしと、備中地域の良さをアピールし、移住定住につなげる準備を行った。

② 事業の流れ

- ・地域の農地の有効利用を図りながら地域活性化を行うため、地域農業の将来ビジョンの作成と市民農園の設置や体験農園でのイベント開催で交流人口を増やすことで移住者の確保を目指す。また、このような取組を恒常的に行っていけるような組織づくりや他の地域と連携した活動を検討していく。

③ 成果・効果

- ・人・農地プランの実質化に係るアンケート結果や農地の調査結果の地図化を行うことで、地域の農地情報や地権者の意向の共有ができ、今後の農地利用や移住者用の農地に目途をつけることができた。
- ・桃部会の研修圃場を協力して選定、準備を行うことで具体的な協力関係が築けた。
- ・市民農園の開設、運営を行うと共に、利用者との交流を通して、地域の魅力の再確認や今後のイベント等のニーズを把握できた。また、所有者から農地活用の提案が上がるようになった。

- ・体験農園の開設とイベントは人気で、穂井田地域のファンづくりができた。今後の参加希望もあり、今後のイベントにもつながる成果となった。

④ 今後の課題・展開等

- ・協議会では移住者増による地域の活力維持を目標にしているので、今回始めた市民農園やイベントが交流人口の増加及び移住希望者のニーズをとらえた受入体制づくりにつなげていく必要がある。
- ・人・農地プランについてはまとまった園地の確保に向けて、未回答者への意向確認を行う必要がある。このため、桃部会と連携して意向確認及び農地利用の検討を行っていくこととしている。
- ・移住相談会や視察についてはコロナ禍で準備にとどまった。実際に1年間取り組んだ結果も踏まえ、より成果が出るような準備を行い今後の実施に備えたい。

⑤ 県民局と協働した効果及び課題

- ・農地利用については県民局が進める人・農地プランの実質化についてアドバイスや支援を受けることができ、地域の農地利用について目途をつけることにつながった。また、普及センターとも連携できたことで、桃部会との連携もスムーズに行えた。

4 参考事項・資料

- ・ちらし3種
- ・農地利用の地図化
- ・穂井田地区のアンケート調査まとめ
- ・ドローン撮影場所

事業変更計画書

①団体名	玉島陶・服部地域まちづくり協議会		
②テーマ区分	指定テーマ (8・9) ・ 自由テーマ		
	該当するものを○で囲み指定テーマの場合は番号を記入してください。		
③事業名	「ええとこ穂井田」農都交流ネットワーク推進事業	④これまでの採択回数	0回
⑤現状及び課題	<p>倉敷市玉島陶・服部地域は、古代から「穂井田（ほいだ）」と呼ばれ、現在、2地域を合わせて、面積1143.5ha、749世帯、総人口1,623人、山陽自動車道玉島ICから約5分にある「ほど良い田舎暮らし」のある地域である。農業振興地域として、米・野菜の栽培や桃・ブドウなどの果樹栽培、乳牛などの畜産などを地域の産業としています。しかし、農業の高齢化や後継者不足が進み、耕作放棄地が広がっている状況である。</p> <p>このような状況に対して、「農」ある暮らし、地域の良さをアピールし、生産現場と消費者（特に都市部）の相互理解を深め、「農」をライフスタイルに組み入れる暮らしを提案し、ひいては移住定住を促進するような仕組みづくりが課題となっている。</p>		
⑥事業内容	<p>近年、農村部と都市部の交流を促進する仕組みの一つとして、「市民農園整備促進法」(H2年制定)による「市民農園」が有効な仕組みとして、注目されている。県内でも岡山市北区の「牧山クラインガルテン」など農都連携型の市民農園が開設されている。</p> <p>本事業では、「市民農園づくり」を農都連携による農村地域活性化の方法として、穂井田地域と同様に耕作放棄地や農業後継者不足に悩む備中地域の農村部と連携・情報共有し、その方法の確立と農都交流のネットワーク構築し、移住定住を促進する仕組みづくりを確率することを目的とする。この目的を実現するために、今年度は次のような事業を実施する。</p> <p>1. 県民局が取り組んでいる「人・農地プランの実質化及び農地中間管理事業推進に係る推進モデル」との連携</p> <p>1. 耕作放棄地の調査</p> <p>① 県民局が取り組んでいる、「人・農地プランの実質化」に向け、地域での勉強会の開催や市と連携したアンケート調査の実施・とりまとめを行い、今後の地域の農地の活用方法について、検討を行う。</p> <p>② ① 移住者の希望に合わせて紹介できるように、下記の3タイプに分けて調査をする。</p> <p>1) 新規就農者に提供できる農地</p> <p>2) 市民農園として提供できる農地</p> <p>3) 家庭菜園として提供できる農地</p> <p>② 備中地域の農業法人やNPOなど組織的に、地域農業に取り組んでいる事業者の共通の課題となっている「農地の集積・集約化等による農地の有効活用」等について、意見交換し、「顔」の見える関係づくり、ネットワークづくりを行う。このことによって、「穂井田」から「備中」という地域のまとまりを意識しながら、今後の展開を構想する。</p> <p>2. 備中地域への移住定住の促進</p> <p>① 県が主催する、都会での移住定住相談会に備中地域として参加をする</p> <p>② 「農」ある暮らしと、備中地域の良さをアピールして、移住定住につなげる。</p>		

2. ~~3. 試験的市民農園(体験農園・レンタル農園)づくり~~
- ① 倉敷市農業委員会と協議して、穂井田地域の耕作放棄地の中で法律・制度に則った市民農園の適地を選定し、試験的な市民農園づくりの計画を立て実施する。またそのプロセスをまとめる。
 - ~~② レンタル農園(4m×5m=20㎡)10区画を整備し、5月に貸し出しをする。植え方、育て方については地域の経験豊富なお年寄りに依頼をする。~~
 - ② 市民農園農地の区画割り等の整備を行う。今後の他の農村地域の方々とのネットワーク構築に向けて情報収集を行う。
 - ③ 試験的**市民体験**農園では、作物栽培が楽しく継続できる作物や市場性の高い作物を検討する。都市住民の方々に農業の楽しさとともに作物の美味しさを感じてもらい、「**体験市民農園**」参加を頂けるようにする。
3. ~~4. 体験市民農園でのワークショップの企画実施~~
- ~~① 「農」ある暮らしをしている地域の方々との交流の時間や農家の暮らしぶりを知ってもらうための地域散策などを行う。(7月下旬から8月初旬)~~
 - ① ~~②~~ 都市部在住の親子を対象として、**体験市民農園**での作付(8月**下旬**初旬)及び収穫(11月中旬)の農業体験を行う。
 - ② ~~③~~ 体験終了後は、地域住民と備中地域の食材を活用した「食」の交流イベントを企画実施する。~~⑦、「農」ある暮らしを共有する。~~
 - ③ ~~④~~ ワークショップ参加者に対して、次年度以降の市民農園の利用需要に関するアンケート調査を行い、その分析結果から**どの**ような穂井田地域での市民農園の方向を決定する。
 - ④ 穂井田地域の特産であるモモ農家の新規就農者受入れ、地域の空き家への移住も含めて、モモ部会と協働して募集に向けた研修圃場等の準備を行う。
4. ~~5. 市民農園先進地域への視察検討と市民農園指定計画の作成~~
- ① 試験的な市民農園の実施結果**及び備中地域農村ネットワークメンバーとの検討**を踏まえて、市民農園の先進地域へ20~30人程度の視察の**検討**を行う。視察は、市民農園型の農都連携の先進地域2カ所を予定しているが、将来的には、「農泊」「農家レストラン」などの展開も検討しており、出来るだけ多機能に運営している地域や事業体を選定して視察する計画である。
 - ② ~~視察での成果を参考として、~~市民農園指定計画と備中地域農村ネットワーク構築構想をまとめる。
 - ③ 次年度以降の運営形態・組織体制、都市住民の方々に魅力のある内容を検討し、次年度は、本格的な「市民農園」(~~体験農園・レンタル農園~~)の開園を計画する。
 - ④ ~~6.~~穂井田市民農園PRのための広報媒体の制作。既存HPへの広報ページの追加制作、チラシ等の製作を行い、倉敷市、岡山市などを中心に近隣地域へのPRを行う。**ほどよい田舎を伝えるために穂井田地区16ヶ所の地点で、ドローン撮影をする。**
5. ~~7. 持続可能な地域するための様々な施策穂井田市民農園づくり計画に関する研修会シンポジュームの開催~~
- ① 備中地域の都市住民、農村地域住民を対象として、本事業に取り組む備中地域の農業関係者や農村地域活性化や農都連携に関する知見者を講師に招いての**シンポジューム研修会**を1回開催する。
 - ② 地域を維持するための収益モデルの考察

	<p>③ 県民局が推進している「農地の集積・集約化」の今後の取組と課題</p> <p>③ 備中地域の農家とのネットワークについては、「農都連携」をきっかけとして、備中地域の農業法人やNPOなど組織的に地域農業に取り組んでいる事業者の共通の課題となっている「農地の集積・集約化等による農地の有効活用」等について、「顔」の見える関係づくり、ネットワークづくりの検討を行う。このことによって、「穂井田」から「備中」という地域のまとまりを意識しながら、今後の展開を構想する。</p> <p>④ 「穂井田」が、「農都連携」「移住定住」の玄関になり得るのかの役割も果たすことが出来ればと考えている。</p> <p>6. 移住定住の促進 県が主催する、都会での移住定住相談会に備中地域として参加するため、「農」ある暮らしと、備中地域の良さをアピールして、移住定住につなげる準備を行う。</p>
<p>⑦事業目的 (目指す直接の結果)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市住民（特に子育て世代）に対して、「農」ある暮らしを体験して頂き、「市民農園」という農都交流の仕組みが有効に機能するような仕組みづくりとその検証。次年度の「市民農園」開設につなげられるように協議会を中心に地域全体で協議し結論を出すこと。 ・耕作放棄地や農業後継者不足に悩む備中地域の農家と「顔」の見える関係をつくり、備中地域内でのネットワークをつくり、移住定住を促進する仕組みづくりを確立する。 ・穂井田地域における「市民農園」開園が、地域を活性化する仕組みとして有効と判断した場合、地域における運営形態をどのようにするかを検討し決定し、次年度開園のための計画を作成する。
<p>⑧今年度期待される成果 (短期アウトカム) その活動で得られる利益や変化</p>	<p>・県民局が取り組んでいる推進モデルと連携しておこなう、先進事業となるので、県民局が行う研修会等で事例報告を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の都市住民の方々に、穂井田地域の「農」ある暮らし、ほどよい田舎暮らしの魅力を体験認知して頂き、アンケート調査を実施し、「農」ある暮らしがどの位、魅力的に感じられるかの検証に基づいて、その暮らしを自身の暮らしに組み入れられるかを検証すること。 ・そのため今年度は、試験的な市民農園づくり及び「農」ある暮らし体験への参加者を確保する。目標参加人数約40名（都市部親子等30名及び備中地域農村部参加者10名程度）2回 ・次年度以降市民農園開設時には、市民農園の契約者として参加頂くことについてもアンケートを取って検証する。 <p>・持続可能な地域における組織・運営形態が決定され、ビジョン及び事業計画を立案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備中地域の組織運営をしている農家との「顔」ネットワークを作る第一歩となる。 ・行政単位でなく、備中地域としての移住定住促進を図る仕組みができる。
<p>⑨将来的に期待される成果 (中・長期アウトカム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・穂井田地区は、山陽自動車道玉島ICから約5分に位置する、都市部に隣接した農村部「ほど良い田舎」である。その魅力を都市住民が理解し「市民農園」を通じて、都市生活と田舎暮らしの両方を体験する中で穂井田地域を玄関として、構築されたネットワークで、備中地域の農村部への移住定住が促進されること。 ・県民局が推進しているモデルのパイロット事業となり、本農都連携「市民農園」事業と備中地域の組織的農家とのネットワークが構築されることによって、より一層「農地の集積・集約化等による農地の有効活用」が進み、についての理解が深まり、新規就農者が増加する。

⑩翌年度以降の事業展開の予定	<p>1. 県民局が推進しているモデルの推進モデル地域となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 県が主催する、都会での移住定住相談会への積極的な参加 2. 3. 備中地域の農業者、その関係者と連携しての地域特産品のブランド化や6次化・農産物の共同販売などのネットワークの構築 3. 4. 「市民農園」開園のための計画書づくり及び調整 4. 5. 「市民農園」開園
⑪事業実施に関連する活動実績・アピールポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・当協議会は、平成29年度から令和元年度まで「倉敷市市民企画提案事業」に採択され、玉島陶・服部地区のまちづくり計画を策定する中で地域住民アンケート調査を行い、その結果をから「どのような地域づくりをするのか」を十分に検討し、住民合意を基に地域づくりを進めてきた ・都市部に隣接した穂井田地域を玄関として、備中地域の農業法人、NPOなど組織的な取り組みを行っている農家と「顔」の見える関係づくりを行い、「農地の集積・集約化等による農地の有効活用」、「地域特産品づくり」「移住定住相談会への参加」等を通じて、備中地域農村部とのネットワークをつくり、「農都連携」を活性するモデルとしたい。
⑫想定される役割分担	<p>【団体】 本事業の企画実施、アンケートによる検証、備中地域の農業関係者のネットワーク化、次年度以降の計画作成</p> <p>【県民局】 本事業の広報、事業実施過程における助言、事業の評価</p> <p>【その他】 農業委員会、倉敷市農林水産課、JA、備中地域の法人、農業関係NPO、くらしき作陽大学、他大学、穂井田地区モモ部会、NPO法人みんなの集落研究所、備中地域おこし協力隊員等</p> <p>【理由・期待できる相乗効果】 農業振興地域である穂井田地区（玉島陶・服部地域）は、人口が集積している倉敷市市街地と隣接しており、他の備中地域の点農村部へと交流人口をつなぐ玄関となりうると考えているから。</p>

<記入上の注意事項>

- 1 それぞれの項目についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 2 「⑥事業内容」欄は、それぞれの活動について課題解決や事業目的における意味・位置づけとともに対象者、実施地域、実施方法なども記入してください。
- 3 継続事業は「⑪事業実施に関連する活動実績・アピールポイント」欄に昨年度までの採択事業の主な実績・成果も記載してください。
- 4 「⑫想定される役割分担」欄は、協働協定書等に基づき提案団体及び備中県民局、その他の役割を記入してください。
- 5 変更部分を朱書き又はアンダーラインにより、変更前後が対照できるように記入してください。

日程変更計画表

年月	事業内容	場所	規模等
R2.4	・ 県民局との協議 ① 備中地域の JA、農業生産者、大学、各関係組織との調整、確認及び実施計画の精緻化、経費等の再見積。協議会への報告、地域への伝達。	穂井田憩の家	40人
R2.5 ~6	② 穂井田地域の耕作放棄地調査開始 ① 試験的市民農園の候補地選定、整備開始。農園で栽培する「備中野菜」の選定等必要な種子、資材等の調達。 ② 事業の広報、HP制作、SNS立ち上げ ③ 県民局との協議	穂井田地域耕作放棄地	10人 20人
R2.6 ~7	① 事業の広報、試験的市民農園の耕作者募集 ② 穂井田地域の「農」ある暮らし、ほどよい田舎くらしの体験者募集	穂井田憩の家 穂井田地域耕作放棄地	5人
R2.8	③ 市民農園整備完了。作付け野菜の選定完了。 ① 「農」ある暮らし、ほどよい田舎くらしの体験実施 ② 募集した耕作者による試験的市民農園づくりの実施	倉敷市内 穂井田地区	20人 5人
R2.9	③ 都市部親子等を対象とした農業体験（作付）及び交流イベントの開催 ④ アンケートの実施 ⑤ アンケートの集計、事業の振り返り		4019人 +スタッフ
R2.10 ~11	中間報告 ① 先進地域の視察 ② 市民農園指定計画の作成 ③ 次年度以降の計画の作成 ④ 都市部親子等を対象とした農業体験（収穫）及び交流イベントの開催及びアンケートの実施 ⑥ 試験的市民農園の耕作者にアンケートの実施	備中県民局 日帰り可能な所 穂井田憩の家	30人
R3.2	① 市民農園づくり計画に関する 研修会 と開催	穂井田憩の家 倉敷市内	5010人
R3.1 ~2	県が主催をする移住定住相談会の参加（2回×1人）		2人
R3.3	① 使用経費の精算 ② 実施報告書の作成 ③ 県民局との協議 ④ 事業報告	備中県民局	

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください（例：〇〇市文化センター、△△市内）。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。
- 4 変更部分を朱書き又はアンダーラインにより、変更前後が対照できるように記入してください。

穂井田ええとこ

倉敷市・市民農園

農園コスモス 利用者募集中

秋・冬野菜 種まきシーズン到来!

主いじりが好きな方、野菜や花を育ててみたい方、娯楽や気晴らしに自然と触れ合える農園を始めませんか?自分で育てた野菜を食べる喜びや、育てる工夫など...はじめ出したら止まらない時間を過ごしてみませんか。

市民農園
農園コスモスって
なんですか?

野菜や花を育てる
小面積の農園です。遊休農地を
活用して開設しています。また、
初心者の方には、地元農家の方から
指導も受けられますよ。【要予約】



何を育てるかは
あなた次第!

初心者大歓迎!

どうぞお気軽にお問い合わせください!

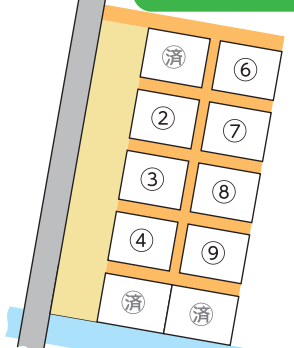
概要

使用期間:令和3年3月31日まで
使用料:無料
使用面積:1区画約20平方メートル

設備

駐車場:あり
農具:なし 農具倉庫:なし
上水道、トイレ:なし
貯水タンク:あり

使用区画図



全部で10区画

※先着順で締め切らせていただきます。
区画が埋まり次第終了となりますので
何卒ご了承ください。

現地



現地詳細図

現地案内図



主催
お問い合わせ

玉島陶・服部地域まちづくり協議会 倉敷市玉島陶1834-1
(穂井田憩いの家内)

TEL.FAX 086-525-5058 / 090-3172-8060 (太田)

穂井田ええとこ

倉敷市・市民農園

農園コスモス

親子野菜種まき

体験募集

秋には「収穫祭」を予定してますよ!

9/13日 9:00~10:30

お子様と一緒に種まきから収穫までの一連の作業を体験し、ものづくりの喜びや食べ物大切さを学べる良い機会になるのではないのでしょうか?

苦手な野菜が食べられるようになるなど、お子様の食育にも役立ちます!

自然の中で、親子コミュニケーションタイム楽しみませんか。

ぜひお問い合わせください。

日時 令和2年9月13日(日) 9:00~10:30

集合場所 市民農園 農園コスモス (受付/8:30~)

定員 20人 (先着順)

参加費 **参加無料** ※先着順につきお早めにお申込ください

締切 令和2年9月7日(月)

服装 作業ができる服装でお願いします。

参加方法 メールまたはFAX申込書にて申込内容を記載の上、下記連絡先までお送りください。

FAX:086-525-5058 E-mail:h-ikoi@mx1.tamatele.ne.jp



主催
お問い合わせ

玉島陶・服部地域まちづくり協議会 倉敷市玉島陶1834-1

(穂井田憩いの家内)

TEL.FAX 086-525-5058 / 090-3172-8060 (太田)

FAX申込書

フリガナ 代表者 お名前	ご住所	〒	TEL	
			FAX	
フリガナ 参加者 お名前	年齢	才	フリガナ 参加者 お名前	年齢
	性別	男・女		性別
フリガナ 参加者 お名前	年齢	才	フリガナ 参加者 お名前	年齢
	性別	男・女		性別

穂井田ええとこ 倉敷市・市民農園
農園コスモス

11/15 10:00~
 (2時間予定)

野菜収穫体験 大募集

参加費:〈1家族〉1,000円 ※野菜代込

お子様と一緒に野菜の収穫を体験しませんか?
 畑では野菜がどのように育ち、それを収穫する体験はきっと
 お子様の食育にも役立ちますよ!ぜひご家族でご参加ください!

収穫した
 野菜は回収後に
各家族毎1袋まで
 お持ち帰り
 いただけます!

- 日時** 令和2年11月15日(日) 10:00~(2時間予定)
- 集合場所** 市民農園 農園コスモス (受付/9:30~)
- 定員** 15組 (1家族1組/先着順)
- 参加費** 1,000円 ※野菜代込
- 締切** 令和2年11月10日(火)
- 服装** 作業ができる服装でお願いします。

応募方法 メールまたはFAX申込書にて申込内容を記載の上、下記連絡先までお送りください。
FAX:086-525-5058 E-mail:h-ikoi@mx1.tamatele.ne.jp

主催 玉島陶・服部地域まちづくり協議会 倉敷市玉島陶1834-1
 (穂井田頹いの家内)
お問い合わせ TEL.FAX 086-525-5058 / 090-3172-8060 (太田)



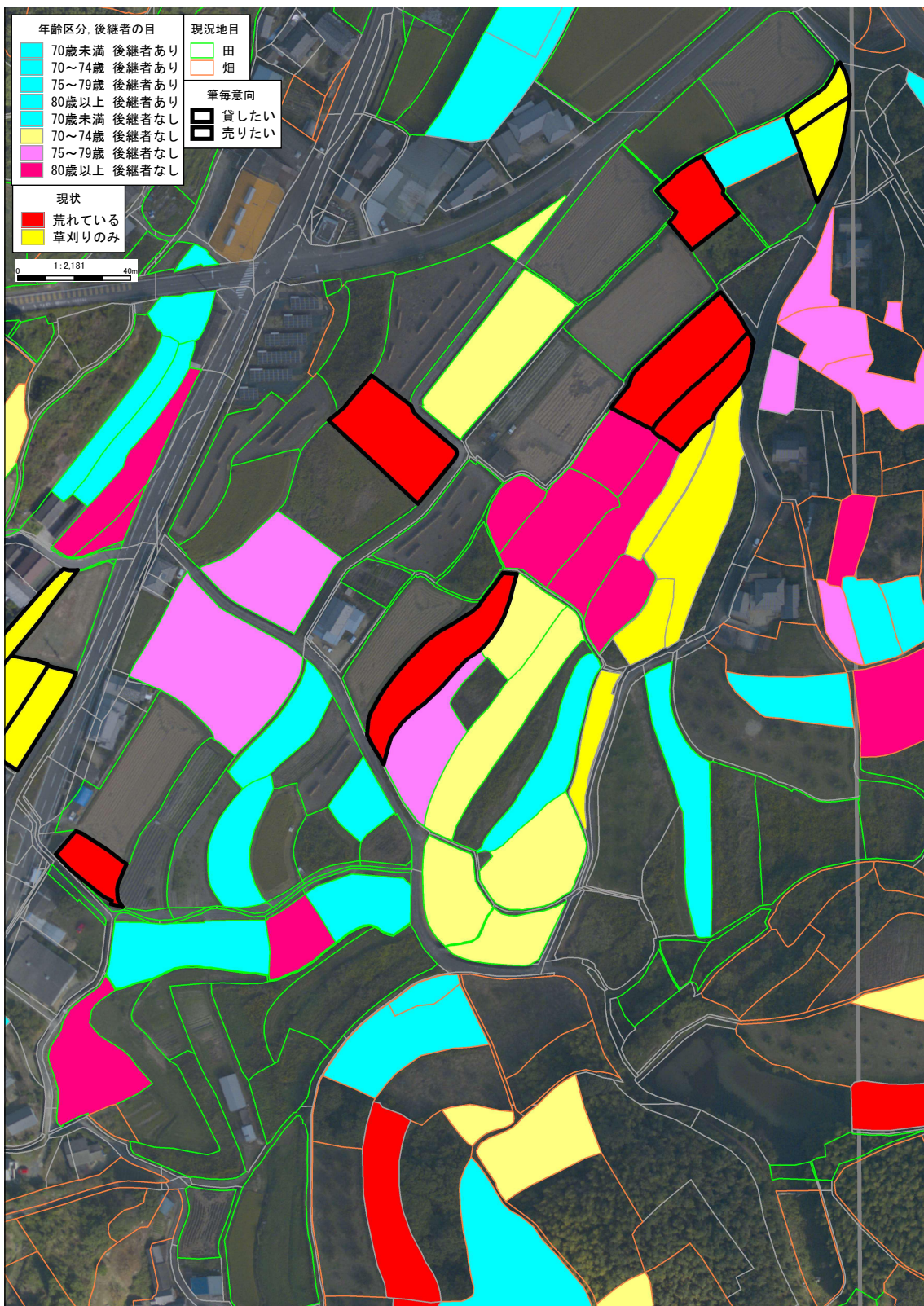
FAX申込書

フリガナ 代表者 お名前	ご住所	〒		TEL	
				FAX	
フリガナ 参加者 お名前	年齢	才	フリガナ 参加者 お名前	年齢	才
	性別	男・女		性別	男・女
フリガナ 参加者 お名前	年齢	才	フリガナ 参加者 お名前	年齢	才
	性別	男・女		性別	男・女

危険度

低

高



危険度
高

低

年齢区分, 後継者の目

- 70歳未満 後継者あり
- 70~74歳 後継者あり
- 75~79歳 後継者あり
- 80歳以上 後継者あり
- 70歳未満 後継者なし
- 70~74歳 後継者なし
- 75~79歳 後継者なし
- 80歳以上 後継者なし

現況地目

- 田
- 畑

筆毎意向

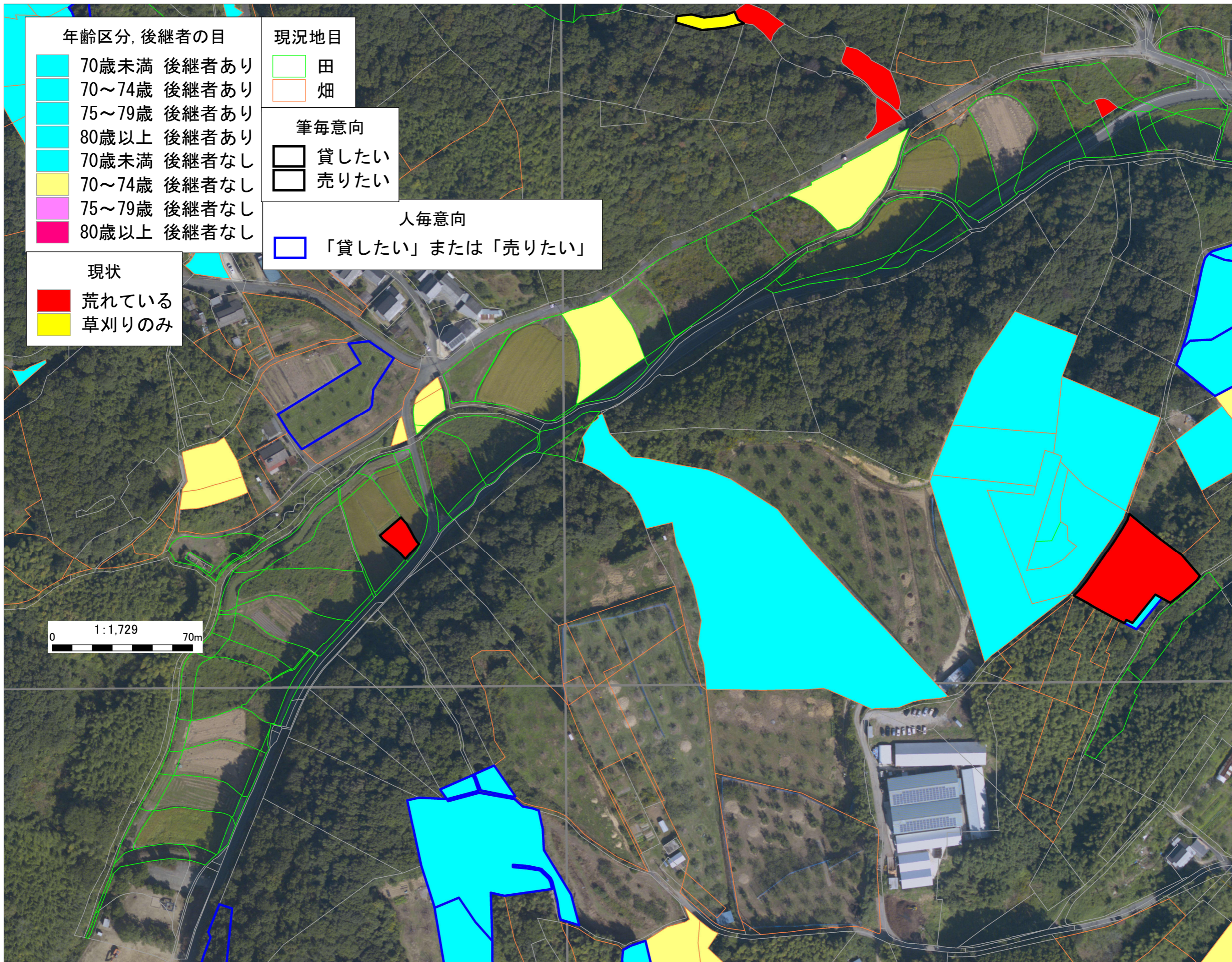
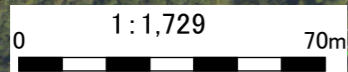
- 貸したい
- 売りたい

人毎意向

- 「貸したい」または「売りたい」

現状

- 荒れている
- 草刈りのみ



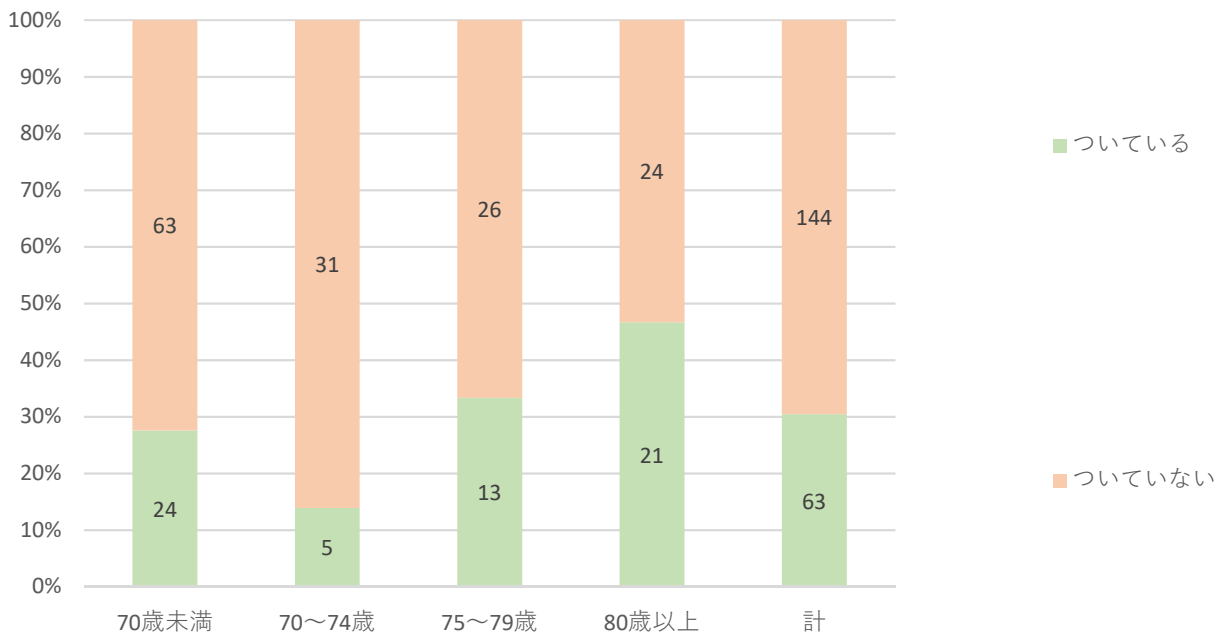
Q2：年齢－10年後の後継者の目処

※同じ列を参照

	ついてい る	ついてい ない	計	
70歳未満	24	63	87	42%
70～74歳	5	31	36	17%
75～79歳	13	26	39	19%
80歳以上	21	24	45	22%
計	63	144	207	100%

年齢が上がるにつれて、後継者の確保割合が上勝手になる。
→子が定年してから後継者の位置づけになることが多いため？

年齢－10年後の後継者の目処



Q3：年齢－今後の意向

※同じ列を参照

	規模拡大	現状維持	縮小・リ タイア	農業して いない	計
70歳未満	5	29	4	43	81
70～74歳	0	10	13	15	38
75～79歳	0	13	17	8	38
80歳以上	1	10	16	19	46
計	6	62	50	85	203

40%

19%

19%

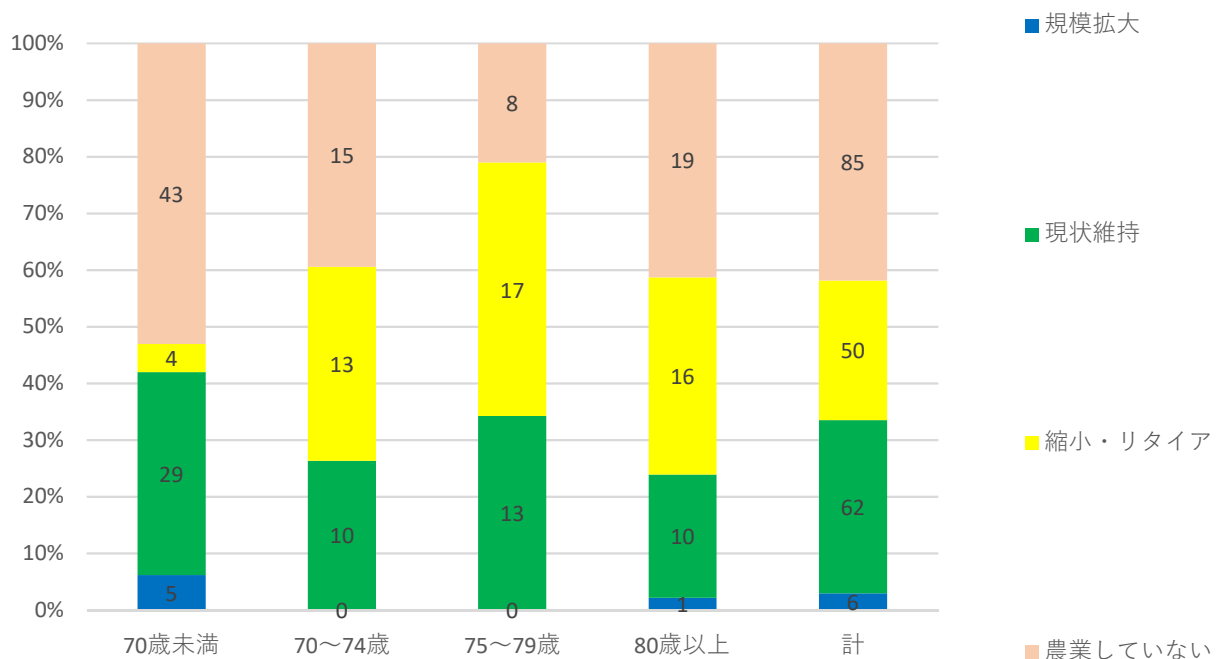
23%

100%

80歳以上の拡大希望者は後継者がいる方。

現在農業をしている者の42%は今後の維持に課題あり。

年齢－今後について



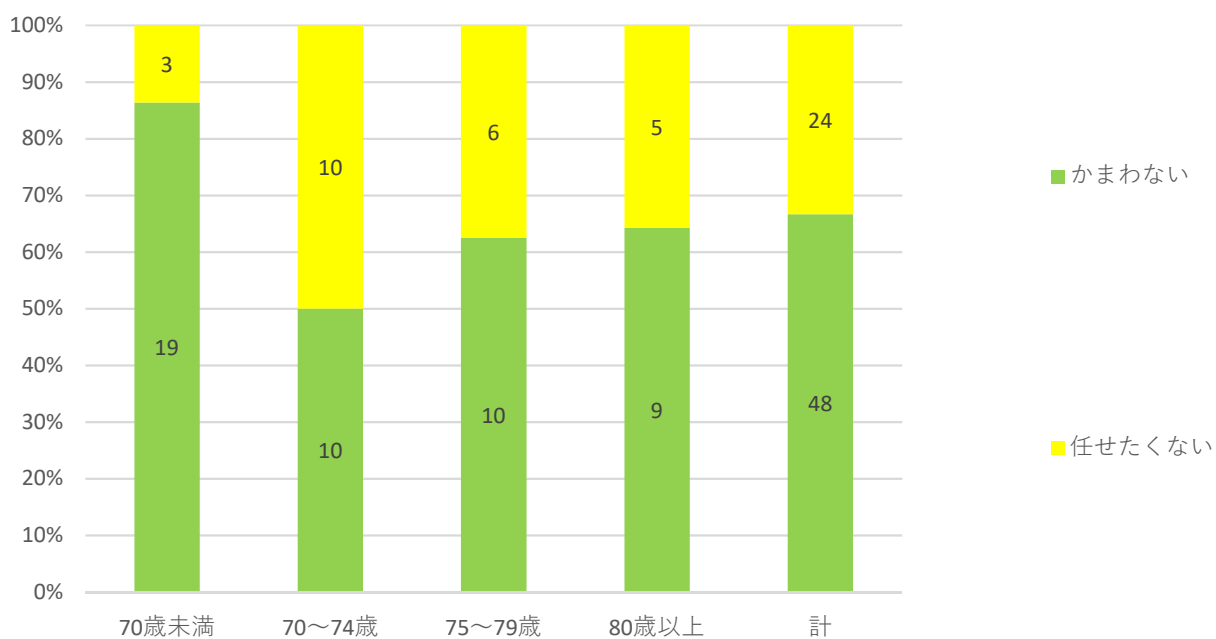
Q5:年齢-集落外から「農業したい」と入ってくるとしたら

※別々の行を参照

	かまわな い	任せたく ない	計	
70歳未満	19	3	22	31%
70～74歳	10	10	20	28%
75～79歳	10	6	16	22%
80歳以上	9	5	14	19%
計	48	24	72	100%

若い人は地域外からの
受入に賛成の人が多
い。

年齢-集落外から入ってくるとしたら

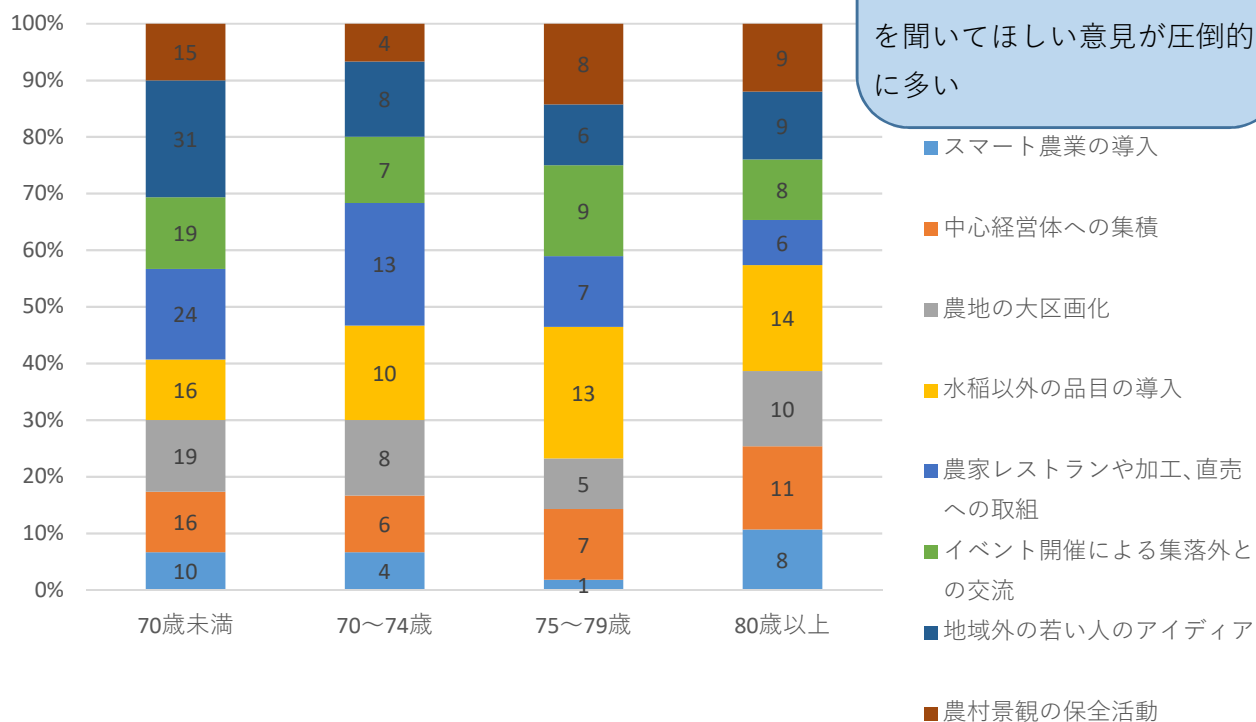


Q6:年齢－穂井田地区の活性化に必要なこと

※別々の行を参照

	スマート農業の導入	中心経営体への集積	農地の大区画化	水稻以外の品目の導入	農家レストランや加工、直売への取組	イベント開催による集落外との交流	地域外の若い人のアイデア	農村景観の保全活動	計
70歳未満	10	16	19	16	24	19	31	15	150
70～74歳	4	6	8	10	13	7	8	4	60
75～79歳	1	7	5	13	7	9	6	8	56
80歳以上	8	11	10	14	6	8	9	9	75
計	23	40	42	53	50	43	54	36	341

年齢－穂井田地区の活性化に必要なこと



どの世代も収益の確保（水稻以外の作物、加工）を支持。

若い人は若い人のアイデアを聞いてほしい意見が圧倒的に多い

後継者の有無－経営の5年後の意向 ※同じ列を参照

	規模拡大	現状維持	縮小・リ タイア	農業して いない	計
ついでい る	5	38	9	13	65
ついでい ない	1	25	41	70	137
計	6	63	50	83	202

担い手のいない人の農地
は2割程度（26/137）し
か守れない。
→担い手の確保が急務！

後継者の有無－5年後の意向

